

2012年度
沖縄キリスト教短期大学
一般入学試験問題（前期日程）

国語総合 [客観・記述]

受験上の注意事項

- 1 監督者から試験開始の合図があるまでは、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 試験時間は、9時20分から10時20分までの60分間です。
- 3 この問題は、12ページあります。解答用紙は2種類です。
客観テスト（1～9ページ） …… 解答用紙（マークシート）
記述テスト（10～12ページ） …… 解答用紙（最後のページ）
※ 監督者の指示によりページを確かめて、もし間違いがあるときは交換を申し出てください。
※ 記述テストは、最後のページの解答用紙を切り離して解答してください。
- 4 解答用紙（マークシートとA4サイズの2種類）に、受験番号・氏名を記入してください。
- 5 マークシートの記入方法と取り扱いについて
 - 1) 鉛筆（必ずHBまたはB）を使用する。 ※ シャープペンシルは使用しないこと。
 - 2) 解答カード番号は、4 をぬりつぶす。 受験番号は4桁ぬりつぶす。
 - 3) マークシートは、機械処理します。もし解答記入後、訂正するときは、二重解答と読み取られることのないように、消しゴムで完全に消すこと。 また汚損しないこと。
- 6 問題用紙は持ち帰ってください。

国語総合 【客観テスト】

次の文章を読み、後の問い（問1～問20）に答えなさい。回答はマークシートにマークしなさい。（各3点）

アジアの地で無辜の民を無惨にも殺戮したのは、ごく普通の夫であり、父親であつた。そして「戦争で必要とされた工業技術者たちが、戦後、地球環境を変えるほどの大量生産・消費社会の土台を作」り、戦後社会の「仕事を変え、家族を変え、食を変え、身体を変えた」（真鍋弘樹「百年の重み 抱えていこう」『朝日新聞』一九九九年一二月二二日付朝刊）のである。人を殺す戦争の技術と組織が、「平和な」豊かさの原動力となり、それがまた家族の荒廃をもたらし、環境を破壊し、人間の身体さえも変えていく。この歴史の営みのなかで三世代の一〇〇年が綴られてきたのである。そのひとコマひとコマが、生身の個人にとつては偶然の連続だったかもしれない。だがその連続は、死屍累々の巨大な惨禍となつて想像を絶する犠牲者を歴史の断頭台に送り込んだのである。その記憶はいまも癒えず、多くの人々の胸深く澱となつて生き続けている。

大量殺戮と大量生産（消費）の光と影が交錯する「極端な時代」は、偶然を生きた普通の人々の日常が、おぞましいほどの悲惨に通じる一〇〇年であつたことを示している。

アこそ、そうした背理を抜き差しならないかたちで差し出すことになつた最大の惨禍である。なぜ、営々として日常を生きたごく普通の人々が、憚ることなく人を殺し、犯し、そして焼き尽くすことができたのか。さらに戦後も生き延びて、「他者」への痛痒を感じるよりも、むしろ自らの被つた被害だけにこだわり続けることができたのか。その歪んだ「自己愛」を普通感覚にしてしまうのは何なのか。こうした素朴な問いに答えることこそ、おそらくは歴史観というものの果たす役割なのかもしれない。その場合、ふたつのことが問われなければならないだろう。

そのひとつは歴史の連続と断絶をどのように見たらいいのかということである。「自由主義史観」や「戦争論」あるいは「敗戦後論」など、戦後五〇年をきっかけに戦争の記憶とその物語が賑々しいほどの論争的になった。それらに共通していることは、「敗戦ショック」を曖昧にやり過ごしてきた戦後五〇年に対するざらざらした違和感である。

「自虐」や「エゴイズムの跋扈」あるいは「ねじれ」などの表現が、濃淡の違いはあれ、それを示している。その限りで、戦後というものの中心にある憲法についても「その起

点は汚れている」(加藤典洋『戦後を戦後以後、考える』岩波ブックレットNo.四五二、一九九八年)という自覚が生じてしまわざるをえないのである。

だがそのような「汚れの自覚」は、数々の「戦勝」の積み重ねの果てに「敗戦」があったことを忘れている。そして「敗戦」がいったい誰に対する「負け戦」であったかについて突き詰めているとは言い難い。「自由主義史観」にせよ、「戦争論」にせよ、あるいは「敗戦後論」にせよ、負けたのは占領の主体となったアメリカに対してであるという「イ」に縛られ、「戦勝」と「敗戦」の連続を見つめてはいないのである。

だがあらためて自問してみる必要がある。破壊を被り、汚辱を受け、占領の「汚れ」の体験を強いられた原因は、戦いが終わったところにあるのではなく、戦いが始まったところにあるのではないか、と。この点で印象深いのは、話題になったヴァイツェッカー旧西ドイツ大統領のドイツ敗戦四〇周年の記念演説(『荒れ野の四〇年』岩波ブックレットNo.五五、一九八六年)である。「故郷を追われ、隷属に陥った原因は、戦いが終わったところにあるではありません(拍手)。戦いが始まったところに、戦いへと通じていったあの暴力支配が開始されたところにこそ、その原因はあるのです」。あらためてこの発言を噛みしめてみる必要がある。もともと、ヴァイツェッカーは「その原因」の始まりをヒトラーが政権に就いた一九三三年一月三〇日に求めているが、ドイツ近現代史を含めて「その原因」をもっと遡ってみるべきかもしれない。

日本の場合で言えば、「その原因」は満州事変と思われるかもしれないが、日清戦争にまで押し広げて考えられるのではないか。そうしてはじめてこの「百年のこと」のなかで敗戦が見えない系のようにつながっていることに気づくはずである。いわゆる「司馬史観」に対して専門的な歴史家としての立場から切り込んだ中村政則の『近現代史をどう見るかー司馬史観を問う』(岩波ブックレットNo.四二七、一九九七年)は、「忠君愛国ナシヨナリズム」の「ウとアジア蔑視感の「エ」という点で日清・日露戦争が決定的な転換点であったことを示してくれる。

なるほど「司馬史観」風に言えば、いとも小さき国が世界の荒波に乗り出し、そのなかで上も下も、政治家も農民も、「坂の上の雲」を目指して粉骨砕身した時代のナシヨナリズムが日清・日露戦争に漲っていたと言える。「オ」、すさまじい貧困と飢えのなかで一家離散し、異郷の地で「お国」(＝日本)のために牛馬のような苦役を強いられ、「失郷者」としての半生を生きたわたしの父のような半島出身者にとって、日本の国家としての隆盛は悲劇の始まりでもあったのだ。

問1 傍線①「殺戮」の読みとして、もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は1)

- A さつりく
- B さつもう
- C さつがい
- D さつけん
- E さつばつ

問2 傍線②「ごく普通の夫であり、父親であった。」という一文から、筆者が言おうとしていることは何であると推測できるか。もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は2)

- A 戦争という特殊な状況は、常に人間の精神状態をおかしくする。
- B 家庭を守る普通の父親の責任として、積極的に殺していった。
- C 国家間の戦争では、普通の夫や父親が犠牲者となる。
- D 普通でなく、特別な人間は戦争でも人を殺さない。
- E 普通の人間であっても、場所や状況によっては人を殺す。

問3 傍線③「平和な」とあるが、括弧書きの表現にした作者の意図としてどのようなことが考えられるか、もっとも不適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は3)

- A 皮肉や矛盾を込めている
- B 真の意味で平和なのかを問うている
- C 人を殺す戦争が平和をもたらしたというギャップを強調している
- D しみじみと平和な社会を感じている
- E 大量生産・大量消費社会が平和なのかを疑問視している

問4 傍線④「ひとコマひとコマ」という表現の意図は何であると推測できるか。もっとも不適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は4)

- A 社会の必然性を表現
- B 映像のようなワンシーンを表現
- C 個人の歴史の断片を表現
- D コマ扱いされた人間を表現
- E 巨大な惨禍との比較を表現

問5 傍線⑤「極端な時代」の説明として、もっとも不適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は5)

- A 戦中の工業技術者が、戦後の大量生産・大量消費社会の土台を作った時代
- B 「平和な」豊かさの原動力が、戦争の発端となった時代
- C 人を殺す戦争の技術と組織が、「平和な」豊かさの原動力となった時代
- D 大量生産・大量消費社会が、家族の荒廃や環境破壊をもたらした時代
- E 偶然を生きた普通の人々の日常が、おぞましいほどの悲惨に通じる時代

問6 文中の ア に当てはまる語句として、もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は6)

- A 戦争
- B 偶然の連続
- C 家庭崩壊
- D 天皇制
- E 日常

問7 傍線⑥「『他者』への痛痒を感じるよりも、むしろ自らの被った被害だけにこだわ
り続けること」を、本文中では何と表現しているか。もっとも適切なものをA～Eの中
から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は7)

- A 負け戦
- B 歴史観
- C 歴史の連続と断絶
- D 占領の「汚れ」
- E 歪んだ「自己愛」

問8 傍線⑦「歴史観というものの果たす役割」について、筆者の考えを示したものと
してもっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は8)

- A 民族の特徴分析
- B 戦争の原因究明
- C 過去の出来事の解釈
- D 客観的事実の検証
- E アイデンティティーの確立

問9 傍線⑧「ざらざらした違和感」とあるが、それは何に起因していると考えられる
か。もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は9)

- A 自虐史観が欠落しているから
- B 「戦勝」と「敗戦」の連続を見つめていないから
- C 戦争を反省する姿勢がないから
- D ねじれに気付いていないから
- E 普通感覚が麻痺しているから

問10 傍線⑨「濃淡の違い」は何を意味していると思われるか。もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は10)

- A 個人の意見の背景
- B それぞれの主張の度合い
- C それぞれの視点の正否
- D 個々の同一性
- E 言葉の意味の違い

問11 傍線⑩「汚れの自覚」は何を意味していると思われるか。もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は11)

- A 戦勝の積み重ね
- B 敗戦による憲法制定
- C 大量殺戮と大量生産
- D 戦争体験の記憶
- E 「エゴイズムの跋扈」

問12 文中の「イ」に当てはまる語句として、もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は12)

- A 打撃
- B 感傷
- C 評価
- D 幻想
- E 通念

問13 傍線⑪「汚辱」の読みとして、もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は13)

- A おんじょく
- B くつじょく
- C おじょく
- D くっしん
- E おんしん

問14 日本においては、傍線⑫「戦いが始まったところ」として筆者はどのように捉えているか、もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は14)

- A 大西洋戦争
- B 太平洋戦争
- C 真珠湾攻撃
- D 日清戦争
- E 満州事変

問15 傍線⑬「あらためてこの発言を噛みしめてみる必要がある。」とあるが、その理由としてもっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は15)

- A ドイツが敗戦した理由と、ヒトラー政権の関係を考えるため
- B ヴァイツゼッカー旧西ドイツ大統領の敗戦四十周年記念演説であるため
- C 日本の戦後と、ドイツの戦後を比較するため
- D 「戦勝」と「敗戦」の分析をするため
- E 敗戦が見えない系のようにつながっていることに気づくため

問16 文中の「ウ」と「エ」の組み合わせとして、もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は16)

- A ウー停滞 エー発展
- B ウー始まり エー終わり
- C ウー浸透 エー定着
- D ウー問題 エー解決
- E ウー安心感 エー不安

問17 文中の「オ」に当てはまる語句として、もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は17)

- A ところで
- B なぜなら
- C そうして
- D そのような
- E しかし

問18 傍線⑭「私の父のような半島出身者」とあるが、その出身地は何処だと考えられるか、もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は18)

- A マレー半島
- B 朝鮮半島
- C インドシナ半島
- D 房総半島
- E 薩摩半島

問 19 この文章の主旨として、もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は19)

- A 戦後の豊かな社会構造を検証している
- B 戦勝と敗戦の原因を検証している
- C 二十世紀とはどんな時代だったのかを検証している
- D 日本人の自虐史観を検証している
- E 戦争体験を検証している

問 20 歴史を捉える上で、どのような視点が重要だと筆者は訴えているか、もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は20)

- A 戦争を見つめる
- B アジアを見つめる
- C 憲法の制定について見つめる
- D 歴史の連続性を見つめる
- E 歴史論争を見つめる

国語総合「記述テスト」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答は解答用紙に記入しなさい。

ふつうこのコトバは「メメント・モーリ」と明治以後つたえられてきたように思う。ラテン語をカタカナにそのまま直したわけである。英語国人はどう呼んでいるのだろうか。ためしにコンサイスをひいてみたら、「ミメントウ・モーリ」、「ミメントウ・モーライ」とある。意味のほうはどうかと、ウェプスターを見たら、かねてから私がおぼえこんでいたように「死を忘るな」というよりは、「死すべきものなることを忘るな」ということになるらしい。

私の父は謹厳そのものの小学校教師で、大量のタバコを吸うということのほかには、ほとんど趣味のない人であった。乱れず、崩れず、淫せず、ひたすら固く人生を送ってきたが、戦時中の物資不足のときにフト屋台にさそわれてヤキトリを食べ、そのため腸チフスにかかり、それを町内の医者で風邪とゴシン^aされて、はかなくなつてしまったのである。私が中学校一年生のときであった。病院のモルグへいつてみると、父は柩^{しきよ}に埋められた棺によこたえられ、鼻孔に綿栓をつめられ、台車にのせられてやってきた。頬が黄いろい蠟のようになり、口を少しあけ、ニコチンのしみた歯が黒くて、乾いていた。まぶたが凹んで小さい貝殻のように見えたことをおぼえている。叔父が叫び、母が慟哭した。その声もおぼえている。

ヤブ医者にかかったための愚にもつかぬ死でこれはあった。だから幼い私は黄蠟の顔を恐れるよりは、その後、何年も、ヤブ医者^②を憎むことにふけた。殺してやりたいと思いつめたこともしばしばだった。この憎悪^bの過剰のために私は冷静を失ったが、いまになって考えると、私は父の顔貌の急変に打撃され、その恐怖からのがれたいばかりに、強くて単純で懷疑のためにフハイ^cするということのない情念にしがみつきたかったのかもしれない。戦時中、私は何人もの死を目撃した。戦後にも何人かの死顔を目撃した。黒焦げ。溺死^d。窒息死。瞬間的飛散。じりじりと迫りつめられたことはつきりわかる餓死。

死は人に節^{ふし}をつくり、きわめて急速にその人を成熟させる。成熟のさきに何があるかという問いに答えることをしばらくおいて眺めれば、人の死を眺めることがどれだけ人に内熟と寡黙^eをあたえることか。そのため、そこ^③からたちもどつてきたとき、若者の顔にどれほどの熟成のケハイ^eがただよっていることか。よく死との接触の体験が性のそれに比較されて美しく鮮烈に語られることがあるが、しばしば書齋的でありすぎて私を倦ませる。たしかに性は広く、深く、切実である面積を持つが、また、死と接したときにそれははじめて潜在していた深切さを火花のように散らすものでもあるけれど、死そのものにくらべれば、やはりどこか賤民である印象である。ほんとに死と接触したところのある人なら事後に起る性を声高に語る衝動を封ずることであろう。その横

顔と、低い吐息のケハイ^eを眺めると、生は、また性は、ただ死の副産物でしかないようにさえ思われてくる。

《死を忘るな》というコトバは、はじめてそのコトバを知ったときから、私には匿名^fの、姿なき煽動者のように感じられている。死と直面したときにのみ生がその全容をあらわすのである。と、すると、現代日本で微弱、華麗を問わず生が無限肯定的にむさぼることにかなしいばかりの全精力をあげられているのであるなら、ますますわれわれは死を味わおうとして狂奔しているのだという逆説^④も成立するわけである。死らしい死もなく、生らしい生もないので渾沌の扉がひらかれる。中心が朦朧^eとしていて、つかまえようのない薄弱さにもかかわらず、ついふるまってしまう狂気、苛烈のケハイ^e。自身にも他人にもつい見せびらかしてしまうだけの、その場かぎりの炸裂、暗愁。

最近の私が“死”を感じるたびに思いだすのは、ジャングルの底で昼寝している人のようなやすやすで死んでいったヴェトナム政府軍兵士の死顔である。東京ではホンのときたま思いだされる酒のサカナにすぎないが、東西南北から迫ってくる水のような黄昏のなかで枯葉にまみれつつ呻めきもせず、叫びもせず、訴えもせず、ただまじまじと、いくらかびつくりした子供の眼を睨いて息をひきとっていった、あの“歴史の消耗品”と一言で片附けられてかえりみられることのない無名の齒車^⑤たちの頬をよこぎる何かの影。湧出してくる内臓をヒシとおさえながら、ただ眼前の木の葉に焦点を集中しているだけの、あのまなざしである。あなたはそれに批評をつけようとする。いらだつて。急速に。短く。いくらかあなたは“死”におびえているのである。なぜ、その顔を、そのまま、感ずるまま、つぶさに眺めようとしなのか。

（岩波書店編集部編 『エッセイの贈り物 2』 岩波書店 一九九九年 より）

問1 文中の傍線a～fのカタカナには漢字を、漢字にはひらがなの読みを、記しなさい。

問2 傍線①「はかなくなってしまった」とはどういうことか。

問3 「ヤブ医者を憎むことにふけた」(傍線②) ほんとうの理由について、筆者自身はどう思うようになったのか、説明しなさい。

問4 傍線③「そこ」とは何をさすのか。

問5 著者のいう「逆説」(傍線④) とは何か。三〇字以内で説明しなさい。

問6 傍線⑤「歯車たち」は何を指しているか。

問7 「メメント・モリ」ということばをヒントに、この文章の趣旨を五〇字程度でまとめなさい。

問8 この文章にタイトルをつけるとしたら何がよいか。